

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病虫害発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

| |
|---|
| 連絡先 福井県農業試験場 病虫害防除室 Tel 0776-54-5100(代表) 0776-54-9315(直通) FAX 0776-54-6403 E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp |
|---|

平成27年農作物病虫害発生予察予報第6号

8月の気象概況

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。

[水稻関係]

病虫害名 穂いもち

1 予報内容

発生時期：初発期 早生穂いもち 7月6半旬
中晩生穂いもち 8月2半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 葉いもちの発生がないところでは穂揃い期に1回薬剤を散布する。葉いもちの発生が見られる圃場では出穂直前と穂揃期の2回薬剤を散布する。
- (2) 耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連用は避ける。

病虫害名 紋枯病

1 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年よりやや多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 中生品種で、穂ばらみ期の発病株率が20%以上の場合や、倒伏が予想される圃場では、防除を行う。
- (2) 粉剤・液剤での防除は、穂ばらみ期～出穂直前と穂揃い期の2回行う。散布は株元の病斑に薬剤が十分に付着するようにする。
- (3) 早期に落水すると進展しやすいので、水管理に注意する。
- (4) 早生品種や茎数の多い圃場では被害が出やすいので注意する。

病害虫名 ごま葉枯病

1 予報内容

発生時期：発生進展期は8月中旬頃

被害程度：少発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 出穂期以降に根腐れを起こさないように間断通水を行い、早期落水はしない。

(2) 多発地では穂枯れの発生する恐れがあるので、穂ばらみ期～傾穂期に薬剤散布する。

病害虫名 斑点米カメムシ類

1 予報内容

発生時期：加害最盛期は8月1半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 出穂期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない。

(2) 粉・液剤での防除は、穂揃期～乳熟期と糊熟初期の2回薬剤散布を行う。

(3) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が違うので注意する。(詳細は防除指針参照)

(4) カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、本田防除の際は畦畔も含めて防除する。

また、カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。

(5) 斑点米産出能力の高いホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどの発生が多い場合は、さらに収穫14～7日前にも防除する。ただし、使用基準を遵守する。

病害虫名 ツマグロヨコバイ (第2世代)

1 予報内容

発生時期：発生最盛期は8月中旬頃

被害程度：少発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 本虫対象の防除の必要はないが、早生刈り取り後、中晩生で多くなる場合があるので注意する。

病害虫名 セジロウンカ

1 予報内容

発生時期：加害盛期は8月中旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 8月上旬に株当たり幼虫が30～40頭以上の場合は防除する。

(2) 薬剤は株元によくかかるように散布する。

病害虫名 トビイロウンカ

1 予報内容

被害程度：少発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 早期発見に努め、発生がみられたらただちに防除する。

(2) 8月初めに短翅成虫数が1株あたり0.1頭以上、または8月中旬に成幼虫数が1頭以上の場合には防除する。

病害虫名 フタオビコヤガ（イネアオムシ）第3世代

- 1 予報内容
発生時期：第3世代幼虫加害盛期は平年並よりやや早い8月4半旬
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 直播田や熟期の遅い品種や作型、過繁茂のイネでは多発しやすいので注意する。
(2) 斑点米カメムシ類の防除により、本虫の併殺が可能である。

病害虫名 コブノメイガ

- 1 予報内容
発生時期：幼虫加害最盛期は平年並みの8月中旬頃
被害程度：少発
発生量：平年より少なく、前年より多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 適期コシヒカリ栽培や多肥田に多く発生するので注意する。
(2) 発生が多い場合は、葉が巻き始める時期を目安に防除する。

病害虫名 コバネイナゴ

- 1 予報内容
発生時期：成虫加害最盛期は8月中旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より少なく、前年より多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 本虫は広域に移動するので、発生が多い場合は、地域で一斉に防除を行う。

[ダイズ関係]

病害虫名 紫斑病

- 1 予報内容
被害程度：少発
発生量：平年、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 開花20～35日後に薬剤散布を行う。
(2) 薬剤耐性菌の発生を防止するため、系統の異なる薬剤で防除する。

病害虫名 ウコンノメイガ

- 1 予報内容
発生時期：第2世代幼虫加害盛期は平年より早い8月初め
被害程度：少発、局中発
発生量：平年、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 若齢幼虫期（8月初め）に薬剤を散布する。
(2) 山間、山沿いの圃場や生育旺盛で葉色の濃い圃場では、多発生する恐れがあるので、注意する。

病害虫名 シロイチモジマダラメイガ

- 1 予報内容
発生時期：第2世代成虫発生最盛期は平年並みの8月下旬
被害程度：少発
発生量：平年より少なく、前年並み

- 2 防除対策および防除上の注意点
- (1) 若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。
 - (2) 山間部や山沿いでは発生が多くなるので注意する。
 - (3) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

病害虫名 カメムシ類

- 1 予報内容
- 発生時期：圃場侵入最盛期は8月下旬
 被害程度：少発、局中発
 発生量：平年よりやや多く、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
- (1) 圃場への侵入が多くなる子実肥大初期（8月下旬）以降に防除を行う。
 - (2) 8月下旬の圃場侵入期に1圃場あたり100株ずつ3カ所の見とり調査を行い、カメムシ類が平均して100株あたり0.3頭以上いる場合は防除を行う。
 - (3) ホソヘリカメムシが優占種である場合は、加害・分散能力が高いので注意する。
 - (4) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

病害虫名 フタスジヒメハムシ

- 1 予報内容
- 発生時期：第2世代成虫発生最盛期は8月下旬頃
 被害程度：少発、局多発
 発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
- (1) 第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。
 - (2) チアメトキサムの種子塗沫処理を行った圃場では、8月下旬の1回防除を行う。
 - (3) 発生最盛期（8月下旬頃）において、圃場あたり3カ所以上の払い落とし調査を行い、成虫が70頭以上払い落とされた場合は防除を行う。
 - (4) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

[野菜関係]

| 野菜名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および防除上の注意点 |
|-------------|-------|---------|-------------|----------------|---|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発生量 | |
| スイカ | つる枯病 | | 少発 | 平年：少 前年：並み | 1)排水をよくし、敷きわらを行い、過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤を連用しない。 |
| | 炭疽病 | | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：並み | 1)排水をよくし、敷きわらを行い、過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤を連用しない。 |
| | 疫病 | | 少発 | 平年：やや少 前年：多 | 1)排水をよくし、敷きわらを厚くするとともに、窒素肥料を多用しない。 |
| キュウリ スイカ | うどんこ病 | | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：少 | 1)多肥栽培しない。 |
| ネギ | さび病 | | 少発 (局中発) | 平年：多 前年：多 | 1)肥料不足や窒素過多にならないようにする。 |

| 野菜名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|------------------------------|------------|------------------|-------------|------------------|---------------------------|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| 全般 | アブラムシ類 | | 少発 (局中発) | 平年：多 前年：多 | 1) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。 |
| | ハダニ類 | | 少発 (局多発) | 平年：並み 前年：並み | |
| | ハスモンヨトウ | 加害初期： 8月上旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：並み | |
| | ネキリムシ類 | 加害初期： 8月上旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：並み | |
| ナス | テントウムシダマシ類 | 成虫発生最盛期： 8月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや少 前年：やや少 | 1) 薬剤は葉の裏もかかるように丁寧に散布する。 |
| ウリ類 | ウリハムシ | 成虫発生最盛期： 8月中旬 | 少発 | 平年：やや少 前年：並み | 1) 薬剤は丁寧に散布する。 |
| アブラナ科野菜 | キスジノミハムシ | 成虫発生盛期： 9月上旬 | 少発 | 平年：並み 前年：並み | 1) 薬剤は新芽にかかるように丁寧に散布する。 |
| | ハイマダラメイガ | 加害初期： 8月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや少 前年：並み | |
| ナス ピーマン キュウリ ホウレンソウ | シメキイロアザミウマ | | 小発 (局多発) | 平年：並み 前年：並み | 1) 本虫は寄主範囲が広いので注意する。 |
| トマト ナス ピーマン | オオタバコガ | | 少発 (局中発) | 平年：少 前年：並み | 1) 果実に食入するため、若齢期に防除を徹底する。 |

[果樹関係]

| 果樹名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|-----|------|---------|-------------|-----------------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| ナシ | 黒星病 | | 少発 | 平年：少 前年：並み | 1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋却等適切に処理する。 3) 枝が込み合っている場合は剪定して風通しを良くする。 |
| | 黒斑病 | | 少発 | 平年：少 前年：並み | 1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋却等適切に処理する。 3) 枝が込み合っている場合は剪定して風通しを良くする。 |
| | ハダニ類 | | 少発 (局多発) | 平年：やや多 前年：並み | 1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。 |

[花き関係]

| 花き名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|-----|--------|---------------|-------------|-----------------|---|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| キク | アブラムシ類 | | 少発 | 平年：並み 前年：やや多 | 1) 同一系統薬剤の散布回数を減らし、連用を避ける。 |
| | オオタバコガ | | 少発 (局中発) | 平年：やや少 前年：並み | 1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 同一系統薬剤の散布回数を減らし、連用を避ける。 |
| | ハダニ類 | 加害盛期： 8月中旬 | 少発 | 平年：並み 前年：やや少 | 1) 同一系統薬剤の散布回数を減らし、連用を避ける。 |